

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2021年(令和3年)2月15日号 No.1850

目次

■ 2020年のロシア経済と鉱工業生産	1
■ 新型コロナウイルス感染拡大に関するロシアの対応	ROTOBOモスクワ事務所 6
■ 統計速報	13
2021年1月のロシアのブランド別乗用車販売台数	13
■ エトセトラ	14
ロシア・中央アジア連続ウェビナー開催	14
■ トピックス	14
日揮、カザフスタンでガス分離プラントを設計	14
NIS諸国の新型コロナウイルス関連ニュース	14

2020年のロシア経済と鉱工業生産

はじめに

ロシア連邦国家統計局より、2020年のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。鉱工業生産については特に詳しく紹介していく。なお、2020年のロシアの貿易統計に関しては、税関局のデータに基づき、後日より詳しくお伝えする予定である。

統計局の速報値によれば、2020年のロシアの国内総生産(GDP)は新型コロナ対策のための様々な制限措置の導入および世界的なエネルギー需要の低迷によって対前年比3.1%減と大きく縮小した。コロナ禍の影響を受けたのはGDPのみならず、鉱工業生産、固定資本投資、商品小売販売高、貿易高など、2020年の主要経済指標は軒並み悪化している。

2020年のGDPを支出項目別にみると、家計消費8.6%減に対して、公的部門の消費は4.0%増、総固定資本形成が6.2%減、さらに輸出5.1%減、輸入が13.7%減となった。

また、GDPを生産部門別にみると、ホテル・飲食業が24.1%減と大幅に縮小したほか、運輸・倉庫業10.3%減、鉱業10.2%減となった一方、製造業、農林水産業、建設業は0.0%と前年を維持した。また興味深いのは、情報・通信部門が0.2%増となり、コロナ禍でIT産業はわずかながら発展しているようだ。

ロシアの鉱工業生産高を見ると、コロナ禍で3~5月にかけて大幅に生産が縮小したものの、その後は回復し、2019年末~2020年初の水準まで回復した。図表3を見ると、鉱業は低調だったものの、製造業についてはわずかながら成長を示した。エネルギー資源や鉱物資源の生産低迷に関連して、石油製品(-3.0%)、非金属鉱物製品(-2.3%)、冶金(-2.4%)などは振るわなかったが、一方